

関西大学総合情報学部 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム

2024 年度 自己点検・評価報告書

【実施：関西大学総合情報学部 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム運営委員会】

1. 自己点検・評価の実施

「関西大学総合情報学部 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」について 2022 年度より、応用基礎レベルとして実施している。2024 年度は本プログラムの 3 年度目である。

総合情報学部 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム委員会は、2024 年度の履修状況を参考に、授業運営上の工夫などについて意見交換を行い、自己点検・評価を実施した。

2. 評価の基準について

下記の 3 段階で評価する。

- A: 取り組みの内容に特筆すべき点があり、十分に実施できている
- B: 問題なく運営されている
- C: 取り組みの内容について改善の必要がみとめられる

3. 自己点検・評価の結果について

今年度の履修状況などを確認し、委員による意見交換の結果、下記の評価に至った。

【評価結果】 A: 取り組みの内容に特筆すべき点があり、十分に実施できている

本プログラムは、以下の科目群で構成される。

- ・情報と倫理
- ・情報処理
- ・コンピュータの言語
- ・コンピュータネットワークの基礎

- ・ データサイエンスの基礎
- ・ 情報システムの基礎
- ・ ソフトウェア実習

本プログラムの修了は、上記全科目の単位取得が要件となる。また、上記の全科目群は 2022 年度以降に入学した総合情報学部生の必修科目、すなわち卒業要件となる科目となっている。そのため彼らが卒業する際は、プログラムを修了していることとなっている。2021 年度以前の入学生も上記科目を全て修得することでプログラムの修了が可能である。

次表に履修者数と合格率について記す。

	履修者数	単位取得者数	単位取得率
情報と倫理	647	470	73%
情報処理	569	502	88%
コンピュータの言語	696	557	80%
コンピュータネットワークの基礎	621	516	83%
データサイエンスの基礎	544	525	97%
情報システムの基礎	600	519	87%
ソフトウェア実習	538	517	96%

全ての科目で入学定員である 500 名を超える履修者がいる。また、単位取得率が 73%から 97%で分布しており、必修科目とはいえ単位取得・本プログラムの修了が容易でないことが明らかとなっている。「情報と倫理」において例年より低い単位取得率となったため、授業担当者が授業内容と評価基準についての確認を行った。なお、各科目の単位認定に際しては、本プログラムにおける教育の質を担保するために明確な評価基準を維持することを求めている。

急速に普及しつつある生成 AI の利用においては、その仕組みと倫理的側面の十分な理解が求められる。2023 年度より「情報と倫理」、および「データサイエンスの基礎」において、深層学習のニューラルネットワーク構造の講義、及び生成 AI の利用課題、利用にあたっての問題点を講義内容に追加している。

4. 改善・進化に向けた対応について

授業内容の見直しは、教務委員会、C導入教育連絡会議、ソフトウェア実習担当者会議を通じて毎年行われている。これにより、教育内容の硬直化を防ぐとともに、移り変わりの激しい情報技術を適切に取り込むための努力が払われている。

2024 年度は、本プログラム認定前から運用していた学部独自プログラム（「データサイエンス教育プログラム（基礎/応用）」）を見直し、2025 年度からは両プログラムを「データサイエンス教育プログラム（応用展開レベル）」に再編することとした。

また、2025 年度からは、新しい高等学校学習指導要領に基づき、「情報Ⅰ」を学習した生徒が入学してくる。そのため本プログラムを履修する学生の前提知識の変化が予想されている。この変化を踏まえた授業内容変更の取り組みをC導入教育連絡会議、ソフトウェア実習担当者会議において開始している。